

第1回

# データビジネス創造コンテスト

Data business creation contest

賞金総額  
50万円!

慶應義塾大学SFC研究所のデータビジネス創造・ラボとNTTコム・オンライン・マーケティング・ソリューションが主催  
慶應義塾大学三田キャンパスにて4月19(土)に開催



平成26年4月19日(土)午後、慶應義塾大学三田キャンパスにて、慶應義塾大学SFC研究所のデータビジネス創造・ラボとNTTコム・オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社が主催の《データビジネス創造コンテスト》が開催されました。コンテストは、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所の文部科学省委託事業「データサイエンティスト育成ネットワークの形成」プログラムが共催し、アクセンチュア株式会社、株式会社ブレインパッド、SAS Institute Japan 株式会社、株式会社電通、日経ビッグデータラボが協力、独立行政法人科学技術振興機構、情報処理学会情報処理教育委員会、日本統計学会、応用統計学会、データサイエンティスト協会が後援しています。

ビッグデータ時代を迎えて、データを活用して未来を創造するデータサイエンティストの人材育成が活発になっていることから、実際にデータを分析し、新たな知の抽出や価値の創出を競う場として開催されるコンテストです。個人でもチームでも応募でき、高校生、大学生、大学院生の皆さんが対象のコンテストです。

審査委員長である慶應義塾大学環境情報学部長の村井純教授の開会挨拶に続き、主催者でもある同校SFC研究所「データビジネス創造・ラボ」代表の森川富昭准教授によるコンテストの説明が行われました。プレゼンテーションは全国から多数応募された中から予選を通過した12チームによって行われました。前半は、熊本県立玉名高等学校、岡山県立邑久高等学校、長野県立屋代高等学校、千葉県立柏の葉高等学校、芝浦工業大学柏高等学校という高校生、また後半は、東京都市大学環境情報学部情報メディア学科、立教大学経営学部、九州工業大学、慶應義塾大学大学院経営管理研究科、東京大学大学院情報理工学系研究科、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科、早稲田大学基幹理工学部表現工学科の順に行われ、審査が行われました。

いずれもビッグデータ時代に、データサイエンティストを目指す応募者のデータとの取組みを反映した素晴らしい内容で、熱気さめやらぬ中、午後6時前、古谷知之准教授の閉会の挨拶で終了しました。

慶應義塾大学SFCデータビジネス創造・ラボ

原稿作成：前川 恒久  
QCサークル京浜地区・顧問  
日本品質管理学会  
TQE特別委員会・委員



# 第1回「データビジネス創造コンテスト」プレゼンテーション



我が国のインターネットの父、欧米では“Internet Samurai”の異名を持つ慶應義塾大学の環境情報学部長の村井純教授の開会挨拶で始まった《第1回データビジネス創造コンテスト》は、全国から予選選考後選ばれた5つの高等学校、7つの大学・大学院のチームがプレゼンテーションを行いました。

半世紀以上前、米国国防総省の国防高等計画局\*1のDARPAネットに端を発したインターネットの発達、パソコンやデジタル機器、スマートフォンなど近年の急激な発達がきっかけとなり、日々数十億のTwitterによる“つぶやき”が世界を駆け巡っています。先の東日本大震災の際にはその“つぶやき”が大きな社会現象となり、注目されました。

それらの“つぶやき”を可能にしたのがSNS\*2ですが、膨大な“つぶやき”をリアルタイムで分析するツールとして開発されたのが主催者でもあるNTTコム・オンライン・マーケティング・ソリューションズの“Buzz Finder”です。蜂がブンブン飛んでいるような羽音“Buzz”を分析すればリアルタイムで世の中のニーズが解り、ビジネスチャンスにつながると考えた研究所の発案で企画されたのがこのコンテストです。

《第1回データビジネス創造コンテスト》は全国の応募者から集まった予選アイデア審査が3月3日から6日の4日間、慶應義塾大学三田キャンパスで行われ、3月6日に予選審査結果が発表され、3月7日から4月16日までが本選データを“Buzz Finder”を活用しての検証期間とされ、その結果が最終的なプレゼンテーションとして4月19日のこの日の本番となったものです。

予選突破から本番までの期間が短く、かなりタイトなスケジュールですが、発表では“Twitter”の特性とも言える即時性が反映されてまさにリアルタイムの検証が行われたことがプレゼンテーションに見ることができました。

## 慶應義塾大学SFCデータビジネス創造・ラボ

\*1 (通称DARPA : Defense Advanced Research Projects Agency)

\*2 (SNS : Social Network Service)

# 第1回「データビジネス創造コンテスト」プレゼンテーション

## 《交通の一体化 (^-^) ★》……熊本県立玉名高等学校

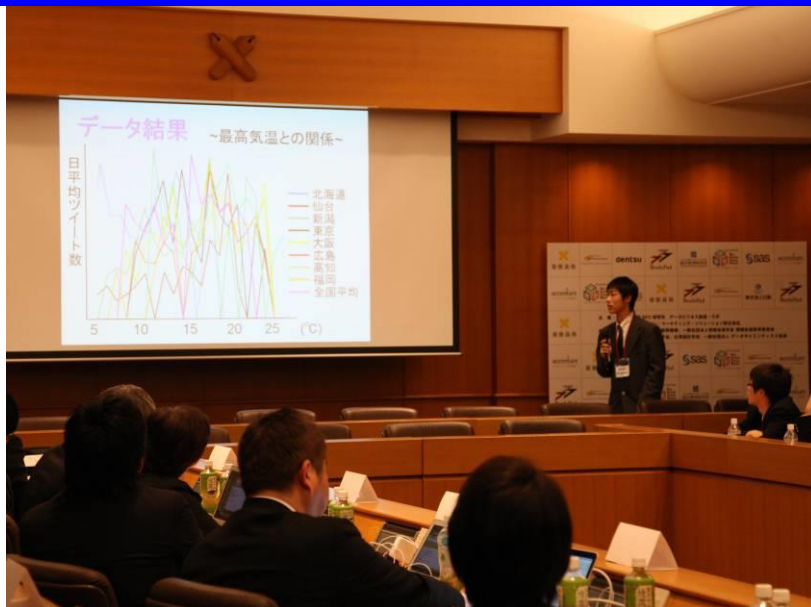


最初の発表は遠路熊本県立玉名高等学校の友田さん、小川さん、三嶋さんの3人で、テーマは《交通一体化 (^-^) ★～遅延が発生した際の円滑な乗り継ぎのために～》をプレゼンテーションしました。

検証期間中の電車事故を対象に選んだ玉名高校の皆さん“JR川崎駅の列車横転事故”をテーマにTwitterがどのような“つぶやき”を交信しているかを“Buzz Finder”を活用して分析し、その交信量を的確に把握すれば電車が不通となって困っている人の混乱解消につながるのではと提案しました。



## 《ソーシャルデータから読み取る花粉症の脅威と天候との関連性について》…岡山県立邑久高等学校



2番目に登壇したのは岡山県立邑久高等学校の鶴島君、東山君、太田君の、共に“花粉症”に悩まされている3人がプレゼンテーションを行いました。

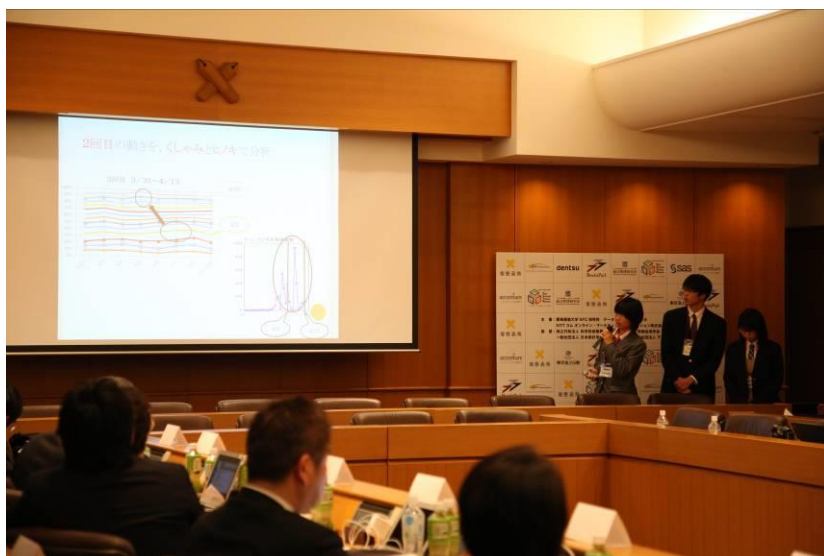
1950年代の大量の植林や都市化、日本人の健康志向が影響し、花粉症に悩む人が増えたが、その原因は何か、どんな花粉に影響されるか、鼻に症状がでたり、眼に症状がでる症状との関係はなどを分析、気温や風速との関係はどうなっているのか、地域差などを考え、警報の出し方を工夫すれば花粉症に悩む人たちにとって役立つ情報を発信できるのではとプレゼンテーションしました。





# 第1回「データビジネス創造コンテスト」プレゼンテーション

## 《花粉症患者のつぶやきを社会の意思決定に活かしたい》…長野県屋代高等学校

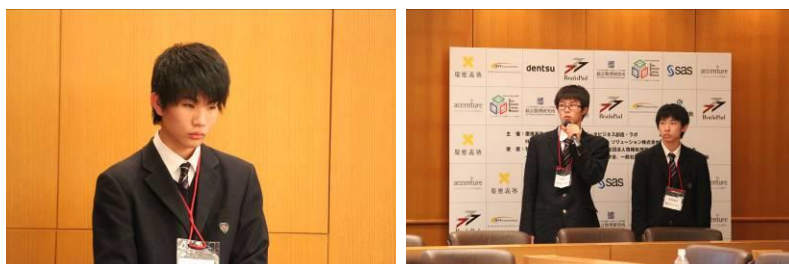


3番目は長野県立屋代高等学校の市ノ瀬君、坂口さん、堀口さん、若林君の4人でした。

《花粉症患者のつぶやきを社会の意思決定に活かしたい》のテーマで花粉症というつぶやきと地図、天気をリンクさせれば傾向が分かるのではと試してみたが地域ごとのズレが見られないことが判明、「くしゃみと地域」や「くしゃみとスギ」で分析するなどキーワードを変えて取り組み、どうやら男女で違いがあることを発見したとのこと。

こうした分析結果からビジネスが生まれるのではとプレゼンテーションを行いました。

## 《あなたのつぶやきからわかる生活習慣病のリスク》…千葉県立柏の葉高等学校



4番目は千葉県立柏の葉高等学校の船串君、澤村君、中島君の3人。

少子高齢化の世の中で1人あたりの医療費の推移を見て“つぶやき”を分析することで病気のリスクを減らそうという取り組みでした。

偏った食生活や飲酒、喫煙、ストレスなどと生活習慣病の関係を“Buzz Finder”を使って分析し、食事の際に何を食べたのか、つぶやきデータを収集し、健康管理を行うWebサービス展開することで生活習慣の改善ができるとプレゼンテーションを行いました。

# 第1回「データビジネス創造コンテスト」プレゼンテーション

## 《桜 開花予報》……………芝浦工業大学柏高等学校

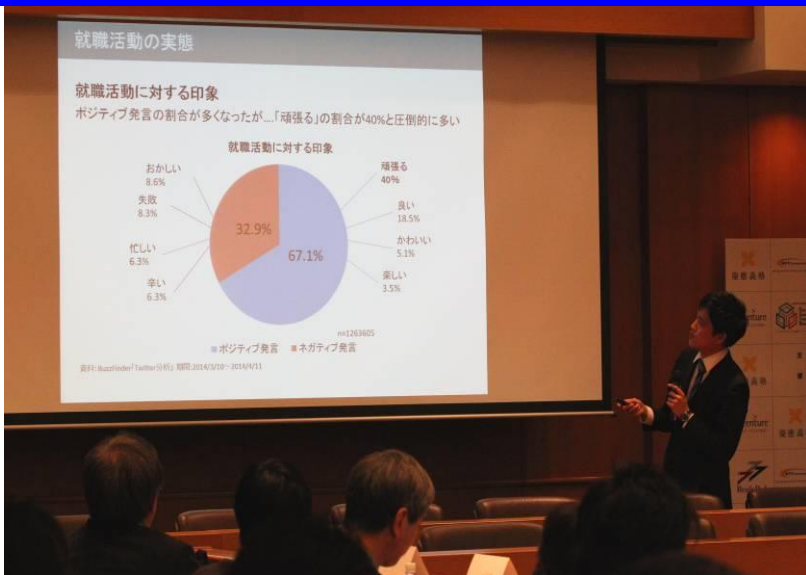


5番目は芝浦工業大学柏高等学校の谷本君。パワーポイントを自分で操作し、プレゼンテーションを始めました。

1年間かけて「Big Ri Data」というホームページを起ち上げた経験を基に、検証期間中に現れ易い現象を絞込んだ結果、《桜の開花予報》にたどり着いたと、九州から北上する桜前線を追いかけて、開花とクチコミ件数とに関連があることを発見したと、関連を「ピザと花見」をキーワードに“Buzz Finder”を駆使してリアルタイムで分析した結果をビジネスにとプレゼンテーションしました。



## 《ネット上のクチコミから就活生の本音を読み取る》……東京都市大学環境情報部



休憩を挟んで、今度は大学生のプレゼンテーションに移りました。

東京都市大学の荻原君、西脇君、山下君で共に就活中の3人が、ネット上の口コミから就活生の本音を読み取ることに取り組みました。

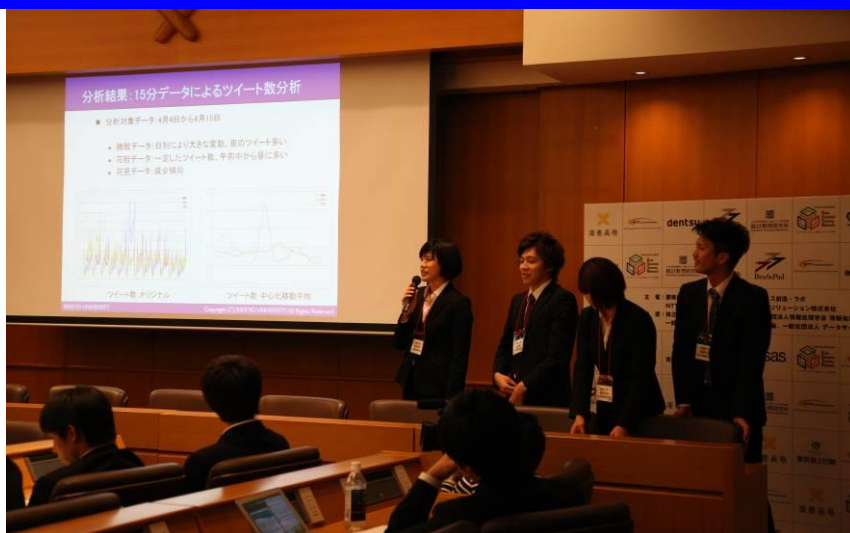
国内労働人口の減少が心配される中、一方では入社3年以内の離職率が高いという実態から“Buzz Finder”を用いて就活生の実態を調べ、何をすべきなのかを具体的に提示すると同時に、企業からも先行の厳しさや自己分析の大切さなどを伝えるなどより良い就職活動への環境づくりをプレゼンテーションしました。





# 第1回「データビジネス創造コンテスト」プレゼンテーション

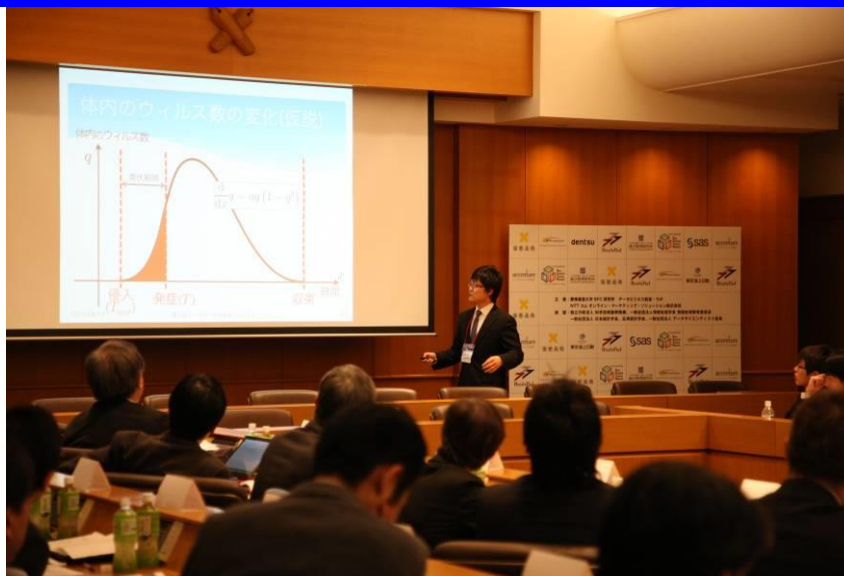
## 《ハピネス度を高める施策の研究》…立教大学経営学部山口研究室



続いて登壇した山下さん、佐々木さん、大竹さん、岡本さん、島袋君、猿田君、江見君、浅倉さんの8人のグループは「～スポーツイベントおよび天候とツイート数の関連分析～」をサブテーマに天候やイベント、ニュース、テレビ番組などによって、私たちの気分の変化にどのように影響するか“Buzz Finder”を使ってリアルタイムに“つぶやき”から測定し、因果を掴むことで「幸せあふれる社会の構築に役立てよう」というユニークなアイデアをプレゼンテーションしました。



## 《Twitterで潜伏期間を早期推定》…九州工業大学廣瀬研究室



世の中に数多くある感染症はSARSなど劇症の場合には致命的なものとなるため、その対策には多くの困難が伴います。

そこで九州工業大学の小柳君のテーマは「感染症の拡大をどう防止すれば良いのか」の視点で、毎年繰返されるインフルエンザの流行を“Buzz Finder”を活用してWeb上の「罹った」と「治った」のデータに絞込み、発症から逆算して急激な拡大を予測し、防止するための武器として活用できないかを提案するもので、極めて実利的で有効なプレゼンテーションでした。



# 第1回「データビジネス創造コンテスト」プレゼンテーション

## 《地域ブランド構築と地域活性化》…慶應義塾大学大学院経営管理研究科



大学生？ちょっと異質ですが、慶應義塾大学大学院経営管理研究科の村上さんは企業在籍経験を活かし“Buzz Finder”を活用してソーシャルメディアを解析し《地域ブランド構築と地域活性化のためのマネジメント・サービス》を実現しようと取組んだ事例をプレゼンテーションしました。

地域プロパティ、観光資源プロパティなどを活用し、旅行者の計画段階から旅行中の人たちへの情報提供により、ヒト・モノ・カネデータをマッチングさせ、地域活性化に役立てようという提案でした。



## 《消費税増税の消費者への影響の評価》…東大大学院情報理工学系研究科/竹村研究室



《投稿数時系列データの「ベキ減衰モデル」を用いた消費税増税の消費者への影響の評価》をテーマに東京大学大学院情報理工学系研究科数理情報学専攻竹村教室の株田君、藤山君、松井さんの3人によるプレゼンテーションでした。

4月1日付けで実施された消費税増税に前後してTwitterへの投稿数がどのように変化したかを“Buzz Finder”の特性でもあるリアルタイムの情報収集・分析する機能を活かした取組みは、まさにビジネスに活用できそうな面白いような内容でした。





# 第1回「データビジネス創造コンテスト」プレゼンテーション

## 《我が子との幸せな時間のために》…慶應義塾大学大学院



～ソーシャルメディアを使用した育児の実態の把握と対応に関する分析～をサブテーマにプレゼンテーションを行った慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科の芥川さん、佐藤さん、毛利さん、渡辺さんの4人、お一人は出産を控えているとか、育児を取巻く環境は厳しく、切実なテーマです。

“Buzz Finder”の分析機能を活用して「育児」と「子育て」をキーワードにデータ収集すると4月上旬の4日間で6万件ヒット、データマイニングを行ったそうです。ここから育児の苦楽、悩みを共有できればと提案がありました。



## 《消費税増税による購買行動の変化》…早稲田大学基幹理工学部表現工学科河合研究室



～コンビニ利用者の選択やいかに～のサブテーマで板橋君、徐君、三家さんの3人が取組んだ発表です。

“Buzz Finder”の特性であるリアルタイムでデータを分析する機能を活用し、消費増税後のセブンイレブン、ローソン、ファミリーマートの男女顧客の購買行動がどのように変化したのかを分析しています。

コンビニ業界のトレンド分析、属性分析を行い、評価した結果、お客様の興味を向けるキャンペーンの必要性などを具体的に提案する素晴らしいプレゼンテーションでした。





# 第1回「データビジネス創造コンテスト」審査委員の先生方



《データビジネス創造コンテスト》の審査委員長の慶應義塾大学環境情報学部長の村井純先生。



慶應義塾大学総合政策学部の國領二郎教授。



慶應義塾大学環境情報学部の植原啓介准教授。



統計数理研究所副所長の丸山宏先生。



NTTコムオンラインマーケティング・ソリューションズ代表取締役の塚本良江社長。



慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の森川富昭准教授。



慶應義塾大学総合政策学部の古谷知之准教授。



慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科の渡辺美智子教授。

他にアクセントの工藤卓哉氏、保科学世氏、ブレインパッドの佐藤洋行氏、橋本武彦氏、NTTコミュニケーションズの塚本良枝氏、SASの森英之氏、山下克之氏、電通の有井和久氏、東京海上日動の高橋祐治氏が審査に当たりました。



# 第1回「データビジネス創造コンテスト」関係者全員の記念撮影



左写真「皆さん、記念撮影しますから、早く並んで下さい。」と大きな声でディレクターを務めたのが《第1回データビジネス創造コンテスト》のSFCデータビジネス創造ラボを仕切る長谷川さん。

慶應義塾大学データビジネス創造・ラボ事務局で八面六臂の活躍をしている方です。



皆さん、そんな固い顔しないで、何時ものように大きな笑顔で行きましょう！！

**慶應義塾大学SFCデータビジネス創造・ラボ**



# 第1回「データビジネス創造コンテスト」での他のスナップ



この日一番緊張していたのは司会を担当した林さんかも？

他の審査員や応援団？の先生方、そして参加者の皆さんも、会場の全員が時間を忘れて結構楽しんでいました。

会場を盛り立てたのは何といたっても設営係にはじまり、受付、マイク係、写真係など、裏方を務めた皆さんでした。

あっという間に終わったコンテストはこの後、厳正な審査が行われました。